

## 補聴と聴覚活用を語る 第18回サマーフォーラム2016 in 横浜

**【期日】** 2016年7月17日(日曜日)～18日(月曜・海の日) 15:50

**【研究会会場】** ウィリング横浜(横浜市港南区上大岡西1-6-1 ゆめおおかオフィスタワー内)

<1日目>7月19日(日)

9:30 受付開始

10:10 オリエンテーション

10:20 トピック「障害者差別解消法と難聴者の新しい情報保障」 高岡 正

(東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター センター長)

4月から施行された障害者差別解消法と改正障害者雇用促進法は、障害を理由とした差別の禁止と合理的配慮を提供することが義務付けられています。合理的配慮提供は難聴者にとっても大きな前進点です。同時に難聴者の聞こえの環境による変化と各種聴覚補償手段の説明の巧拙が合理的配慮成否の鍵になります。福祉制度の手話通訳者と要約筆記者派遣とリアルタイム文字表示、音声認識技術による方法の違いの理解も大切です。

11:00 休憩

11:10 人工内耳アップツーディット「最新の人工内耳システムの情報(特徴と利点)について」

3社(アドバースバイオニクス社、コクレア社、メドエル社)から最新の人工内耳の特徴を紹介します。

コメント:城間将江(国際医療福祉大学)

12:10 昼休み

13:00 記念講演「聴覚障害児の学力、九歳の峠を越えて」

<講師> 脇中起余子(筑波技術大学障害者高等教育支援センター、准教授)

<講演概要>

言語獲得のためには、①語の記憶、②話し言葉から文字への移行、③生活言語から学習言語への移行、④語の選択を決定する要因の理解などが必要である。聴能の進歩や日本語の構造は①や②の軽減につながっている。③について、人工内耳装用児や軽度難聴児で、日常会話は顔を見なくても成立するのに「むやみに」「癒える」などが正確に聞き取れない例が多い。④について、「人称」「ウチ・ソト」「視点」を考慮に入れた語の選択、すなわち「授受構文」や「敬語」が苦手な聴覚障害児が多い。それは、聴覚活用できているようで実は視覚的に思考しており、それが「一人称思考」において「三人称的」になりがちなことと関連するのかもしれない。

15:00 コーヒーブレイク

15:30 分科会 参加者の希望の分科会に分かれて

テーマ「補聴器フィッティング」「人工内耳マッピング」

「人工内耳術後の療育・教育」「軽度・中等度難聴児が抱える課題」

16:50 全体会「分科会報告をもとに情報の共有をはかり、聴覚活用とは何かを考える」

17:30 1日目終了

18:10 懇親会

<2日目> 7月18日(月)

9:15 受付

9:30 「聴覚障害児の言語習得と聴覚活用」

乳幼児期：「乳幼児の聴覚活用とコミュニケーション」 北 義子

(国立障害者リハビリテーションセンター学院)

聴覚機能の不全は乳児にどのような影響を与えているのか。前言語期における聴覚機能の発達と、それによる子どものコミュニケーションへの影響を健聴児の発達から考える。また早期診断された症例と介入の遅れた症例を呈示し、コミュニケーションや言語力における難聴の影響とその発達についてお示しする。

小学校期：「難聴のある児童の自己意識を支える聴覚活用と言語力」 深澤嗟栄子

(横浜市立東小学校通級指導教室)

難聴のある児童生徒は、彼等を取り巻く環境に左右されやすい。今回取り上げる3事例は、聴力、乳幼児期の環境、就学後の対応等は、それぞれ異なるが、彼らが同一の通級指導という環境の中で如何に関わり合い、自己の可能性を伸ばし、自己意識を確立していくかを紹介し、そのために必要不可欠な聴覚活用と言語力について問題提起したいと考える。

中学校期：「難聴中学生の英語学習と言語運用」 白井一夫

(新潟市立新潟柳都中学校、英語学習会 NEWHS 代表)

難聴中学生の支援・指導では、コミュニケーションへの支援と並んで、学習に対する支援が重要である。ここでは、中学における一つの焦点である英語学習について報告しつつ、聴覚活用についての問題提起や言語力のとらえ方(「言語運用」の視点)についても検討を行いたいと考える。

12:30 昼食

13:30 難聴者の体験談「私と聴覚障害～アメリカで受けたスピーチセラピーを中心に」 大庭純子

父の転勤でアメリカに16年滞在。ロサンゼルス滞在中に耳の障害がわかり、英語の発音訓練などを受ける。当時の聴力は両耳95dB。5歳の時に帰国し、日本聾話学校幼稚部を経て小学校1年から普通学校へ通う。11歳の時に再び父の転勤でミシガン州へ。ミシガン大学美術学部卒業後の1990年に帰国。婦人服地卸メーカーで5年半勤務後、新聞社のデザイン職へ転職し現在に至る。

聴力は両耳110dB、幼少時から読話約7割、補聴器約3割でコミュニケーションをとっている。

2016年1月、右耳に人工内耳埋込手術を受け、未知の音の世界を楽しんでいる。

14:30 休憩

14:40 補聴器アップデート 「補聴器の拡張機能、通信機能と自己調整機能」

4社(オーテコン社、スターキー社、フォナック社、GNリサウンド社)から最新の情報を提供します。

15:40 まとめ

15:50 終了

